

地域おこし 協力隊通信



移住支援担当

松藤 裕也

皆さんこんにちは、松藤裕也です。いよいよこれから夏本番がやってきます。近年の異常な気候を考えると、今年もまた酷暑がやってくるのかと少しうんざりしますが、体調管理をしっかりして、熱中症に気を付けながら乗り切っていきたいものですね。

「地域おこし協力隊」って何だ??

今回は僕がこの町に移住するきっかけとなった地域おこし協力隊の制度について少しご紹介したいと思います。この制度の知名度も徐々に広がってはいますが、「実際のところどういう仕組みになっているの?」という質問をいただくこともありま

すので、改めて確認していきましよう。

「ご承知のように、いま日本の大きな問題の1つが、大都市圏への人口の一極集中と地方の過疎化です。秩父エリアも例外でなく、皆野町も昨年の4月に総務省により過疎地域として認定されています。国は、さまざまな角度からこの問題解決に取り組んでいるわけですが、そのうちの1つが地域おこし協力隊という制度なわけです。総務省のデータによると、令和4年度は、全国1,118の自治体で6,813人の地域おこし協力隊が活動をしていました。現在町では令和3年度に採用された奥村さんと僕の2人が隊員として活動しています。協力隊の任期は最長3年と定められていますので、僕たち2人は今年度が最終年度となります。

それから、協力隊の活動経費や月々の報酬については、これは一旦町から支払われますが、国の特別財政措置の対象になっています。最終的には国からの交付金によって補填される仕組みとなっていて、協力隊を受け入れた自治体には実質的に負担のない制度となっています。

この制度では、大きく2つの狙いが設定されています。1つは、都市部から移住した隊員が、『よそもの』の視点を持ってその町の課題解決に取り組み、ま

ちの活性化につなげること。もう1つは、隊員自身が最長3年の任期の間にその町に生活の基盤を作り、任期終了後も継続して定住できる状態を作ることです。実際データを見ると、約65%の隊員が任期終了後に同じ地域に定住していますので、この国の狙いは一定の効果を上げているといえると思います。僕自身、現在キャンプとカフェ「僕らのミナノベース」を立ち上げ準備中です。今年度の任期が終了するまでに何とかこの事業を軌道に乗せて、今後永くこの地に定住できる体制作りを目指しているのです。



今年は敷地にある桑の実を収穫してシロップ漬けにしました！ソーダで割ってジュースにしようと思います。

開業まであと少し！

さて、その「僕らのミナノベース」ですが、いよいよ開業準備も追い込み段階に差し掛かってきました。着任1年目に土地探しから始まったこの計画ですが、その道中、数々の障壁にぶつかってきました。本当に、何度も心が折れそうになりました。しかしその度に、周りのかたの暖かいご支援と適切なご助言をいただくことができ、そしてまた心を立て直し、やつのことでもここまでたどり着きました。僕の計画に関わってくださいました全ての皆さん、本当にありがとうございました。ご紹介します。

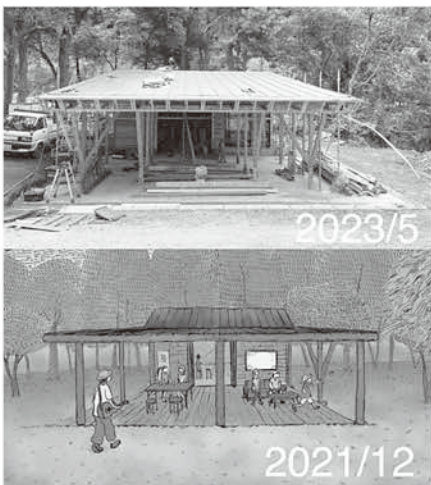
そして今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

現段階の計画では、夏休みの時期から、まずはテスト営業でキャンプ場とカフェ「鹿のねど

こ」を稼働させ、問題点の洗い出しと改善を行い、秋口にはブランドオープンを予定しております。どこかのタイミングで町民の皆さんにお披露目の機会を設けさせていただきたいと考えております。日時が定まりましたらアナウンスをさせていただきますので、どうぞお楽しみに！



今年から、四輪草刈り車を導入しました。広い土地の草刈りもこれで楽々です。



ちょうど2年前、この土地を見つけたときから想像していたカフェがこうやって形になってきたのは感無量です。